

島根県における木製玩具を取り入れた活動からみる 子どもの発達への影響

島根県立大学 ◎梶間奈保,内山仁志,水内豊和（保育教育学科）,藤翔平（保育学科）

背景 木製玩具は一般的に「子どもにとって良い」「教育効果がある」という印象が先行し、木製玩具と子どもの発達について学術的根拠の観点での研究が少ない。また「木育」という言葉から自治体や保育教育分野で注目を集めているが、木製玩具を取り入れる取組や玩具開発に焦点があたっている。そこで本研究では以下の視点で木製玩具を通じた活動と子どもの発達との関連性について研究に取り組んだ。

- 保育現場における（玩具）玩具の実態把握と子どもの発達との関連性
- 木製玩具の活動における子どもの観察を通じた分析的視点の構築
- 木製玩具の固有性を見出す—他素材玩具との比較
- 本学で木製玩具を取り入れた活動の展開

これらから、研究は大きく3つのアプローチで検討を進めた。

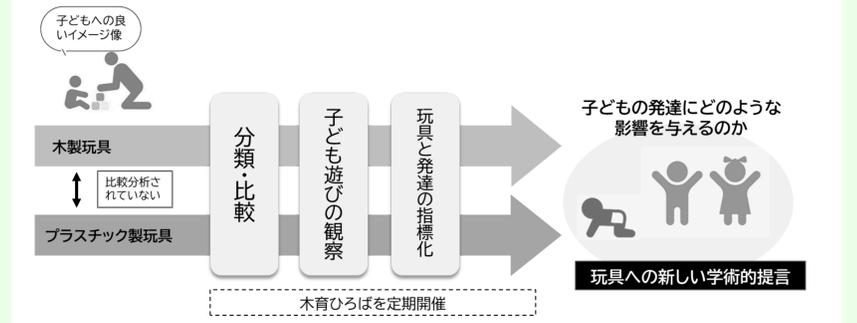


図1. 研究のイメージ

アプローチ1

保育現場における玩具と子どもの発達に関する調査



実態把握・基礎研究

- ・奥出雲町内の保育施設への視察（2023年度）
- ・木製玩具×子どもに関する先行研究まとめ
- ・木製×身体的発達に関する先行研究まとめ（2024年度本学起用投稿）



表1. 先行研究に見られる木製玩具のイメージや実態のまとめ

カテゴリ項目	イメージや実態の具体的な位置（場所）
用途	ぬくもり、あたたかみ、香り、音、手触り、季節の調整、虫触、遊戯の楽しみ、賞賛、褒賞
発達効果	視覚力、聴覚力、触覚力、コミュニケーション
教育効果	知覚覚醒、学習
物質的強度	丈夫、長く遊ぶ、長く使用できる、長持ち、修理が可能
安全性	無毒・無臭・無味、鋭利な部分がない、顔面や目、口、アレルゲン、臭い
心酔性	やさしさ、心掛かり、豊かな心、心地よい、心が安らぐ、やわらかい、気持ちよく遊ぶ
環境	環境に優しい、木に親しみ、木を大切にする、森林の大切さ、自然、自然を大切に、木を大切に、自然教育
その他	他素材との比較—プラスチック、（価格）—高価

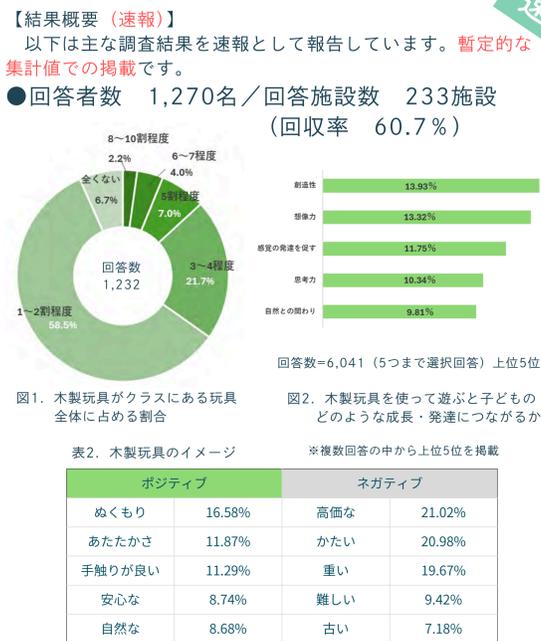
仮説

- ・木製玩具の種類、使用頻度が各園によって違う
- ・年齢や子どもの発達による玩具の捉え方の違い
- ・木製玩具に対してネガティブなイメージもある

アンケート調査（方法）

- 目的
 - ・保育施設の所有玩具と使用状況の把握
 - ・保育者の玩具に対する考えや捉え方を調査
 - ・木製玩具と他素材玩具との遊び方の違い
- 調査期間 2025年8月末
- 調査対象 島根県内すべての保育施設 約380施設
- 方法
 - ・各園にアンケート調査資料を郵送にて配布
 - ・アンケート回答の提出より研究の同意を得たものとする ※アンケートは匿名での実施

アンケート調査（結果）



アプローチ2

木製玩具を取り入れた活動における子どもの観察



実施概要

- 安来市内で実施されている木育活動への参加
協力：Ton-ton 大谷俊行氏
訪問園：安来市内3園
参加回数：2024年度 約15回
- 安来市地球温暖化対策地域協議会実施の木のおもちゃ広場への参加
参加回数：2025年度 3回

- 【参加内容】
- ・主に年齢（3～5歳児）クラスごとに実施
 - ・木製を中心とした玩具で遊ぶ子どもたちへの参与観察
 - ・遊びのあとは片付けを一緒に行う

【活動に取り入れられている玩具の種類や特徴】

- 主な種類 ※以下はすべて木製です
 - ・つみき（積みあげるもの、組み込むもの）
 - ・動物や人の形をしたもの
 - ・食べものや食器などのおままごと玩具



▲木のおもちゃ広場で使用される木製玩具（左：KUMINO、右：カラフルな積木も）
出典：Ton-ton HPより

- 特徴
 - ・人数や遊ぶ空間によって玩具の数や種類を考慮
 - ・年齢や遊ぶ段階によっては、具象的（おままごと）から抽象的な玩具（つみき）のバランスに変化する



【観察を通じた玩具の素材×遊びの特徴】

- 玩具の種類を混在させて遊ぶことで広がる創造性と遊びに加わる集团的、協同性への広がり
- シンプルな形で作られたモノの見立ての変容性
- 匂い、音、重さ、模様への気づき



アプローチ3

本学での木製玩具を取り入れた活動



活動—もくもくのたな

- 【木製玩具に触れる空間づくり】
- ・木製玩具に触れる機会を設け、玩具を通じた子どもの成長について考えるきっかけとする

- こどもの居場所×玩具の先行研究
 - ・他者と共に過ごす経験ができる媒体として玩具が存在している
 - ・自己と他者、玩具の三角関係を支える場の重要性
 - ・避難所では非常事態時であっても子どもの遊びを通じた心身の育ちや学びを玩具で支援

展開

- ・松江キャンパス「おはなしレストラン」の公共性を活かした木育の空間づくり
- ・玩具や人を通して子どもの発達を促すことのできる出会いの場を提供 “意味のある環境”

活動—もくもくのたな

- 「もくもくのたな」の設置
 - ・2025年2月～ 設置開始
 - ・テーマに沿った玩具×絵本の配置



- 「森のおもちゃだより」の発行
 - ・もくもくのたなの設置PRと周知
 - ・玩具と子どもの発達に関するコラム
 - ・テーマに沿った絵本と玩具の紹介



▲「森のおもちゃだより」Vpl.2

考察・今後の展開

- アンケート調査の分析考察を踏まえて、木製玩具×子どもの発達の指標項目を検討する
 - ・木製玩具と他素材（主にプラスチック）玩具での子どもの遊び方の違いについて「重さ」「音」「色味」「シンプルな形」に関する記述
 - ・保育者は玩具に対して、遊びの創造性、玩具を介しての人間関係の構築などに期待している
- 本学において木製玩具とプラスチック素材玩具を比較検討した観察研究の実施を検討



さわって実感

木製

プラスチック製ほか

□4cm尺のつみき
(展示品：国内、国外メーカー)

□KUMINO
(Ton-tan 木育ひろばで使用)

□3Dプリンターの試作品
(協力：高根県立大学短期大学部
倉橋徹准教授 / 地域情報学)

□プラスチック製のブロック
(展示品：既製品)



アンケート調査 (結果)

図1. 木製玩具全体に占める割合

表2. 年齢別

ぬくもり
あたたかみ
手触りが
安心
自然な

今後

アンケート調査
玩具